

翔

NO.78

'89 AUGUST



Butterfly

Beetle

Insect

百万石蝶談会

オヒョウよりシータテハの幼虫を確認

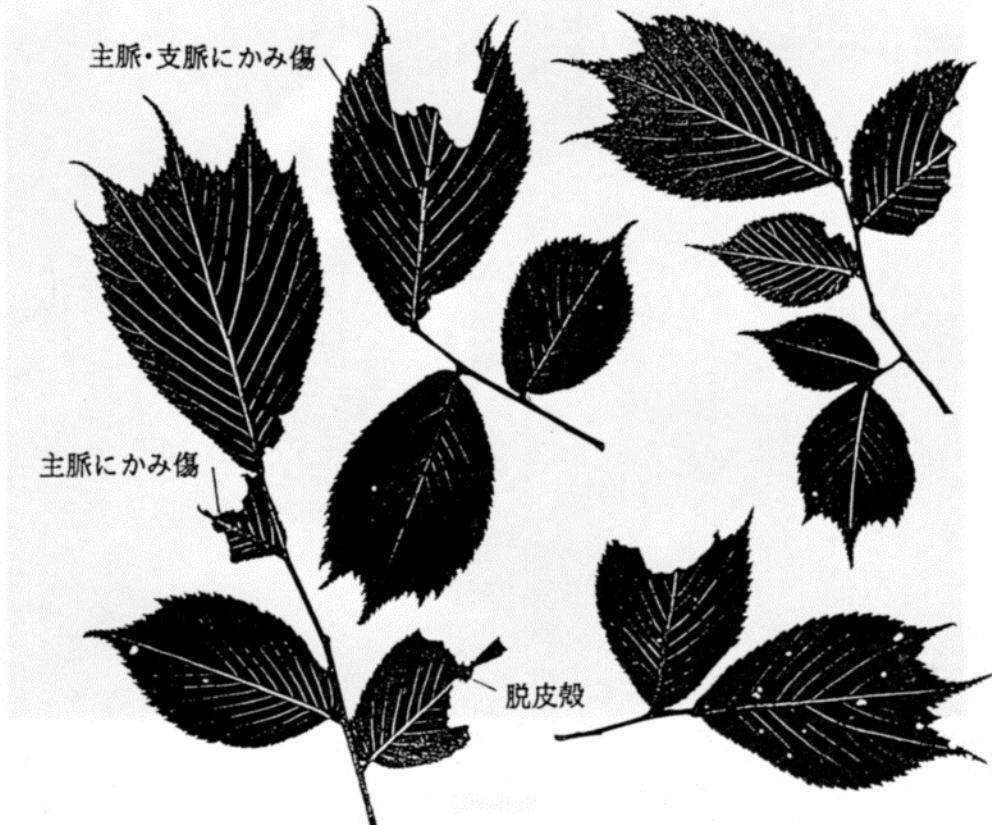
松井 正 人

本県では未だシータテハの食草に関する報文は見当たらない。これはシータテハの分布の薄さによるものと思われるが、今回、毎年成虫が観察されている白峰村白山釈迦林道に於いて、オヒョウを摂食中の終齢幼虫を確認したので報告する。

釈迦林道では少ないながらも毎年シータテハが観察され、オヒョウもサワグルミ、ブナ、トチ、ミズナラといった大木に交ざって幼木から大木まで見られる。確認したのは林道沿いの比較的小さな木で、枝先近くの葉裏の中脈に腹脚でしがみつき、「J」か「U」の字状に体を曲げていた。幼虫は葉裏の中央にいるため、下から見上げることによって簡単に発見することができた。

食害葉は主脈に吐糸され、幼虫はこれにしっかりと腹脚でつかまり、頭部だけを左右に動かして摂食していた。

1989年6月25日 白峰村白山釈迦林道 終齢1幼 松井正人
 1989年7月2日 白峰村白山釈迦林道 終齢1幼 松井正人



1 幼の付近に見られた食痕

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東 3 7 1-15》

金沢市牧山でジャコウアゲハの発生地を発見

松井 正人

金沢市内では、2～3カ所しか知られていないジャコウアゲハの発生地を新たに発見したので報告する。

牧山は背後に雑木林をかかえ前面に水田が広がるといったのどかな山村集落で、ウマノズクサは民家付近の道路から畑地へと続く斜面に見られた。大きいものでもまだ2m程で、狭い範囲に多数株見られた。卵は一部小指大の茎にも見られたが、ほとんどが葉裏に産み付けられ、簡単に140卵を数える事ができた。なかには卵の上に卵が乗った、2階立てのものも見られた。

1989年5月20日 金沢市牧山 2♂140卵目撃 松井正人

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

Self introduction

上田 昇

自宅 〒920-01 金沢市百坂イ-27-9
O型 昭和21年生まれ

TEL 0762-57-3297
会社員

43歳にして蝶の世界に取りつかれています。初歩的なミスも多いですが、それ以上に蝶の魅力に引かれています。とにかく会員になって皆様の貴重な体験談を聞きたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

Self introduction

日野 正美

自宅 〒491 愛知県一宮市白旗通1-2
正美 A型 昭和22年生まれ
美恵子 O型

TEL 0586-24-1206
医師
医師

蝶を追いかけて30年、始めは父についてただ集めるばかり。最近はやっと観察することに喜びを感じるようになり、衰え始めた体力にムチ打って、家内の実家、金沢近郊の山を歩き回っています。

3年程前から家内も蝶の魅力にとりつかれ、何処へも一緒に出かけるようになりました。家内共々よろしく願い致します。

カナディアン・ロッキー その3

野 中 勝

6月26日。雨。夕刻到着予定の日本からの御一行様を待つとしたら、その間に何もやることがないので、北へ向けて出発することにする。約30カ所設置しておいたトラップを見回るが、冴えないオサ3匹とゴミムシ少々のみ。ピンクマウンテンから北へ向かうとアラスカハイウェイは悪路が多くなり、所々は未舗装となる。そこへ雨が降ったものだからものすごいぬかるみとなり、すぐにナンバープレートも読めないドロコとなる。更にちょっとした登り坂でもスリップがひどく、そこここにキャンピングカーが立ち往生している。ほとんど雪道の感覚である。また、砂利道ではトラックとすれ違おうと、巻き上げられた小石がビュンビュン飛んできて、フロントガラスにビシッビシッと当り、幾つかヒビが入ってしまう。昼ごろには雨が止んだため、昼食休憩をと川沿いの公園に寄ってみるが、すぐに無数の蚊が群がってきて、結局外へは出られず、わびしく車内でオニギリをかじる。蝶は途中少し採集できただけ。フォート・ネルソンに夕方着いた頃には快晴になっており、夕食後も明るいのでブラブラしていたら9時近くになっていて、随分北へ来たことを実感する。

📷 採集品(1988年6月26日)

Papilio glaucus, Euchloe creusa

6月27日。本日は更に北へ向かいながら、途中、好ポイントと聞いたサミット・レークで採集する予定である。天候は晴れたり曇ったりで、フォート・ネルソンからサミット・レークまでの約150kmを飛ばしに飛ばす。サミット・レークでは手紙の指示に従い、たった1軒のガソリンスタンドに寄り、マイクロウェーブ・タワーへの道を尋ね、すぐ裏の細い砂利道を教えてもらう。知らなければ決して入っていく気にならないであろう貧弱な道である。少し登るとすぐに樹林帯を出てお花畑となる。ピンク・マウンテンよりもはるかに悪路であり、かなり無理して登ったが、タワー直下の急坂では遂にめげて、途中で車を止めてしまう。お花畑はピンク・マウンテンのものと良く似ているが、風が弱く、条件ははるかに良い。運良く晴れ間に入っているので、コケモモを思わせる極めて背の低い灌木を足の下に踏みしめ、心地良いクッションを感じながらお花畑を歩き回る。時々飛び出す Boloria, Oeneis をネットしながら進む。彼らの飛び方は決して早くはないが、陽が当たっていると小灌木と石ころが作り出す明暗のコントラストに溶け込んでしまい、中々眼で追うのが難しい。しばらく散歩を楽しんでいると、例の如く雲が広がり、陽がかげってしまう。すると例によって蝶はことごとく姿を消す。やむを得ずすこし標高を下げて、腰丈位の灌木を混じえた草原様の所に行く。カナダの蝶屋の1人が、Erebia theano のB.C.唯一の産地と教えてくれた所である。この種は図鑑で見るとなかなかユニークなベニヒカゲで、ぜひ採集したいと思ったものの、歩き回っても1頭

も飛び出さない。時期が合っていないのか、あるいは隔年発生という事なので今年は発生年に当たっていないのだろうか？ その代り、ピンク・マウンテンの上部で見られたのと同じ Oeneis 3種が多く、鮮度も比較的良かったので少し真面目に採集する。ハイウェーまで1度下がり、Erebia rossii が採れるという近くの河原を見に行く。河原には石ころだけがゴロゴロしており、こんな所に本当に蝶がいるのだろうかと思信半疑で踏み込んでみると、まぎれもない Erebia が飛び出す。ネットに入れてみると、赤紋の発達が悪い大型のベニヒカゲが入っており、rossii の様である。20分程付近を歩き回り、4頭採集する。その後は今日も行程が長いことを考え先を急いだが、又々絶好の晴天となり時々 Erebia が車の前を横切るのので、車を止めてしまう。道路沿いに歩いてみると、Common Alpineのアメリカ名通り最普通種の Erebia である epipsodea、Celastrina に近縁と思われ、鈍い銀色がかった青が美しい Glaucopsyche lygdamus などが得られる。後者は年一化であるが、セント・ルイス付近では4月に得られる種である。アラスカ・ハイウェーは1度ユーコン州に入り、再びB.C.に戻ってワトソン・レークに着く。予想以上の大きな町で、手動洗車場を見つけ、久しぶりにナンバープレートが読める様にする。洗車場といっても、コインを入れると一定時間ホースから水と洗剤が出るだけである。夕食には、チャイニーズ・レストランを見つけ、数日続いたハンバーガーから開放される。

☒ 採集品(1988年6月27日)

Euchloe hyantis、E. creusa、Pieris napi(エゾスジグロシロチョウ)、Erebia rossii、E. disa、E. epipsodea、Oeneis bore、O. melissa、O. polixenes、Boloria polaris、B. freija、Glaucopsyche lygdamus、Hesperia juba、Erynnis persius

6月28日。今日は、B.C.におけるもう一つのウスバキの既産地であるアトリンへ行く日と勇んで起きるが小雨。心配していたアラスカ・ハイウェーは、ユーコン州に入るとかえって良くなり完全舗装。しかし、雨はアトリンに近づくにつれて次第に強くなる。景色は時々ガスの中から雪を頂いた岩山が顔を出す位で、ほとんど何も見えない。ドライブ以外にやる事が無いので順調にアトリンに着いてしまう。アトリンは大きな湖に面した小さな町で、眼前にはたっぷり雪を頂いた対岸の美しい山がそびえ、ずっと遠方には氷河を抱えた高山まで見えて、今回の旅行中最も美しい場所であった。車だとバンクーバーから丸5日位かかる遠路だが、カナダでは小型の自家用機が普及している様で、この湖にもフロートを着けた飛行機が、離着水している。明日にそなえ、車で樹林帯を抜けられる所を捜してみたが、昔の金鉱に通ずる道が縦横に走っているものの、どれも途中から極めて悪路となり、目的は果たせなかった。

☒ 採集品 なし

6月29日。曇り。寒い。それでも昨日とは別の方向を走り回る。結局高山帯には行けなかったものの、Erebia、Oeneis などに良さそうな所はたくさんある。しかし低温のため蝶の飛ぶ姿は無く、わずかに充が草に止まって動こうともしないシロチョウ、シジミチョウを発見して採集したにとどまる。観光案内所にて、徒歩2時間位で行けるモナーク山の山頂付近はお花畑になっている事を教わり、明日好天なら1人で登ってみる事にする。

☒ 採集品(1988年6月29日)

Euchloe hyantis、Glaucopsyche lygdamus、Plebejus idas

6月30日。夜は11時を過ぎても明るい白夜で、分厚いカーテンで光をさえぎって寝る。朝7時に眼を覚ました時はもちろん明るく、曇り空ながらここに切れ間が見えるので、モナーク山に登ることにする。家族は宿に残し、グリズリーの恐怖をウスバキへの欲望で克服しつつ進む。山のふもとは針葉樹が多く、道がうす暗い林を通る時には、すぐそこからクマが顔を出すのではという気持から思わず足が止まりそうになるが、ウスバキ、ウスバキと念じつつ、何かの足しにと歌を歌いながら登る。しかし非情にも樹林帯を抜ける頃には雲が厚くなり、標高約1400mの頂上に着いた時には雨がパラつきだす。山頂付近は雪渓を交えたお花畑で、本当にウスバキが飛び出しそうな実に気持の良い所であったが、雨で低温ときは虫一匹飛ばず、最高の景色をカメラに収めて、後は一気に下る。登り90分、下り40分。アトリンでは本格的な降りになった中、一昨日設置したトラップを見回ったがオサムシはゼロ。以後、3日前に通った道をまたまた景色が見えないままに飛ばし、ワトソン・レークの少し手前で右折、ディーズ・レークまで行く。ディーズ・レークでは晴天となり、明日のコースも好採集地を通る様なので、そこに期待することにする。

☒ 採集品 なし

7月1日。眼を覚ますと曇り。今日もまたまたネットを振れないかと思うと気が滅入ってくる。とにかく先を急ぐと、道の両側は気持の良さそうな湿原となる。しかし悪天ではとても虫が飛び出すとは思えず素通り。時々、右に左に雲の切れ間が出現して遠方の山々に陽がさすが、何故か車のいる所はさけて通っているようで、いつまでも日陰を脱出できない。今日が北方系の種を狙える最後のチャンスの様であるが、遂にネットを出す機会も無いままに通過してしまい、かなり標高を下げたスミザースまで行って宿をとる。連続4日ネットが振れず落ち込む。

☒ 採集品 なし

7月2日。スミザースはスキーリゾートと成っており、スキー場への道路を利用すると樹林帯を抜けられると聞いていたので、曇りではあったが移動前に登ってみる。確かに森林限界のギリギリまで行けたが、寒くて蝶の姿はない。やむなく下り、今日の目的地で、この辺では最大の町であるプリンス・ジョージ

を目指す。プリンス・ジョージに近づくと陽が差してきた為、ろくなものは期待できないと知りつつも少し横道に入って、Colias、ヒョウモンなどを採集する。久しぶりの大都会(?)では買物、中華料理を楽しむ。

☐ 採集品(1988年7月2日)

Euphydryas chalcedona, Speyeris atlantis, Plebejus idas

7月3日。最初の予定ではここから直接南下してシアトルに向かうはずであったが、悪天に追われる様に先を急いだ結果まだ1週間程度の余裕があるので、B.C.東南部で採集してみることにする。従って今日のコースは好採集地と聞いたマクブライトに寄り、有名なカナディアン・ロッキーのジャスパー、バンフ方面となる。晴、曇りの所を交互に通りながら、約300km離れたマクブライトに着くと晴天。何処かに山に登る道があるはずなのだが分からないので、ガソリンスタンドに入って尋ねる。スタンドの女子店員はその道を知っていたものの、普通乗用車では絶対に無理だから止めろと言い張る。では様子だけを見てくるからと、どうにか道を聞きだして行ってみれば、本当にかんりの悪路がジグザグに登っていつている。しかし、途中で諦める程のひどさでもなく、対向車がきたら何処ですれ違おうのだろうと心配しながらどんどん高度を上げていくと、遂に森林限界を出してしまう。ここから更にわだちの後がお花畑に伸びていたが、これはジープのものらしく乗用車では無理。車を降りて少し歩き回る。天気は快晴に近くなっていたが、風が強くて寒く、虫はたまにアブが飛ぶだけである。雪渓があり、子供たちは喜んでいたが、蝶の姿はなく寒いので早々に下ることにする。樹林帯まで下がって来ると風も無く温かくなり、オオイチモンジの仲間、トラフアゲハが現れ、ハナカミキリも少々採る。以後は再びハイウェーを飛ばしてジャスパーへ、そこから本当に素晴らしい景色の中をバンフ方面に南下し、日本でも有名なルイーズ湖のほとりに宿をとる。途中から再び雨となり、寒い。

☐ 採集品(すべてマクブライト、1988年7月3日)

Limenitis arthemis, Speyeris atlantis, Lycaena mariposa,
Plebejus icarioides

7月4日。曇り。次第にシアトルに向かわねばならないのだが、採集主体なら南へ、観光目的なら西へ行くのが良さそうであった。そら寒い曇り空を見ているうちに、採集はもうどうでもいいやという気になり、ルイーズ湖を見物、足りなくなったカナダドルをバンフで補充して西へと決める。バンフの日本人もかなり目につく人ごみを抜けて、ハイウェーの入口、西、南方向の分かれ道まで来た時、少し空が明るくなった気がして、突然南へ向かうことにする。国立公園を抜けて、ロッキー山脈の東側を平行して走る林道を南下して行くと、すぐに感じの良い草原となり、陽も差してきたので車を止めて採集する。Colias、Erebia、派手なヒョウモンモドキ、シジミなどがけっこう見られる。Erebia が

ややボロなので標高を上げようと更に進んでいくと、大型の Colias が目に入って車を止める。採集してみると、Colias ではなく昨年コロラド、ワイオミングで採集した Parnassius phoebus で、かなり小型の新鮮なものであった。以後パルは追加できなかったものの、Erebia epipsodea の比較的新鮮なもの、Oeneis chryxus、Colias などが得られ、サミット・レーク以来ちょうど1週間ぶりにネットを振っての本格的な採集を楽しむことができた。昼すぎからは雲が広がってしまった為、先を急ぐことにしてクランブルックまで足をのばす。

☑ 採集品(1988年7月4日)

Parnassius phoebus、Coenonympha tullia、Erebia epipsodea、
Oeneis chryxus、Euphydryas chalcedona、
Plebejus icarioides、P. idas、Hesperia juba

7月5日。またまた雨。しかしどうせ今日は長距離移動日と気にせずに出発。しばらく走るうちに女房がフロントガラスに入った15cm程のヒビに気付く。以前からあった星型のキズとは別の所からのびており、どうやら昨日通った未舗装道路で小石を受けたらしい。このヒビは1時間に数ミリのスピードで伸びており、シアトルに着くまでに反対側まで達し、フロントガラスが取れてしまうのでは不安になる。結果的には、このヒビは最後まで伸び続けたものの成長速度は次第に鈍り、半ばまで達した所で無事シアトルに到着できた。それはともあれ、この旅も終盤に入り連日の移動に疲れてきたので、今日から3泊は1カ所に留まる事にして、好採集地と聞いたオカナガン・レーク沿いのペンティクトンに宿を決める。この辺はB.C.で最も乾燥している所とのことで、昨年馴染になったセイジの生える荒野には、サソリ、ガラガラヘビ等がいるという。また、予想もしなかった果物の産地となっており、チェリー、モモ、リンゴ等をたくさん作っていた。

☑ 採集品 なし

7月6日。いよいよ本格的な採集ができるのも、あと2日だけというのに曇り。しかし、空に明るみがあるのを頼りにウエストバンク方面に向かう。山を登って行くと、薄曇りの中、女房が P. phoebus を発見。ネットを持って飛び出すと、ストーン・クロップの生えた斜面をよわよわしくフワフワしているので採集。発生環境としては良さそうだったので付近を歩き回ってみるが悪天の為に蝶の姿はない。ふと、道路脇の凹地の白い花にパルが静止しているのに気が付く。当りには同じ花が多数咲いており、良く見ると約1m四方の範囲に5頭ものパルが翅を水平に開いて静止している。陽が当たっていないせいか極めて不活発で、手で触れても飛ばない。全て♂でややボロ。比較的大型で赤斑の発達は普通、昨年モンタナのレッドロッジで採集したものと良く似ている。更に登っていくとスキー場があり、その草原でパル、Coliasを採集。更にこの付近を縦横に走っている林道の1本に入っていくと、針葉樹林の間に感じの良い

草原の斜面があり、充と2人で踏み込んでみると、ストーンクロップが極めて多く、パル1♂採集。晴ればきっとたくさん採れるのにと話していると、車の方で女房がパルがいると騒ぐ。そちらに向かって走り出した瞬間突然陽が差し、するとあっちにもこっちにも、この斜面中をパルがフワフワし始める。片端からネットに入れる。黄色っぽく見えたのを採集すると新鮮な♀で、赤斑の発達も良く嬉しくなる。8歳の充は完全な戦力であり、3歳の聡もまだネットは振れないものの、何処までも付いて行き、止まるのを待ってネットをかぶせることにより数頭採集する。結局この斜面では、多数のP. phoebus、新鮮なErebia vidleri、やや汚損したE. epipsodea、Oeneis chryxus、各種シジミ等が採集でき、悪天のため思う様にネットが振れなかった中盤の欲求不満を一挙に解消する。

☒ 採集品(1988年7月6日)

Parnassius phoebus、Erebia vidleri、E. epipsodea、
Coenonympha tullia、Oeneis chryxus、Vanessa virginiensis、
Euphilotes battoides、Plebejus icarioides、P. idas、
Lycaena nivalis、Erynnis persius

7月7日。最終日にしてやっと天気心配をしなくても良い快晴となる。カナダの蝶屋の1人が、「行ったことは無いが、多分好採集地だろう」と教えてくれたコバウ山へ向かう。非常に乾燥した山であったが意外にも蝶は多く、登る途中でP. phobus、Colias等が得られる。山頂付近でニギリメシをかじっていると、去年からずっと採集してみたいと思っていた Anthocharis sara が飛来して数頭採集。♂はやや痛んでいたが♀は新鮮で、しかもこの辺は全体が黄色になっている型で美しかった。その他にもシロチョウ類、Oeneis等が得られ、最後の採集日を満喫することができた。

☒ 採集品(1988年7月7日)

Parnassius phoebus、Anthocharis sara、Euchloe hyantis、
Pieris callidice、Coenonympha tullia、Cercyonis pegala、C. oetus、
Oeneis chryxus、Polygonia progne、Nymphalis milberti、
Speyeria callippe、S. zerene、Euphydryas editha、Lycaena heteronea、
Glaucopsyche lygdamus、Plebejus icarioides

7月8日。ひたすらシアトルへ帰る。例によって皮肉にも好天。ホープの付近ではP. clodius が何頭もハイウェーを横ぎり、ガソリンスタンドで止まって2♂採集してみたがもちろんボロ。明朝の飛行機でサンフランシスコへ向かう予定なので、シアトルの中心地に宿をとる。近くのショッピングセンターへ行って大型のスーツケースを買い、これまで車のトランクに散乱していた荷物をまとめて日本に帰る準備をしていると、この長かった採集旅行が終わってしまった寂しさと共に、2年余りのアメリカ留学、ハードなB.C.のドライブを無事終えた安心感が湧き上がってきた。

❖ 採集品(いずれもホープ付近、1988年7月8日)

Parnassius clodius、Erebia epipsodea、Cercyonis oetus



ブリティッシュ・コロンビアの蝶 (2)

上段左より	<u>Parnassius phoebus</u> ♂	1988年7月6日	ウエストバンク
	" ♀	"	"
	<u>Oeneis chryxus</u> ♀	1988年7月7日	オソヨーズ
中段左より	<u>Erebia rossii</u>	1988年6月27日	サミット・レーク
	<u>Erebia disa</u>	"	"
	<u>Erebia epipsodea</u>	"	"
	<u>Erebia vidleri</u>	1988年7月6日	ウエストバンク
下段左より	<u>Boloria polaris</u>	1988年6月27日	サミット・レーク
	<u>Boloria freija</u> (アサビヨウモン)	"	"
	<u>Anthocharis sara</u> ♂	1988年7月7日	オソヨーズ
	" ♀	"	"

カナディアン・ロッキー その1(翔74号)にも書いた様に、B.C.は北米に分布するパル3種の全てを産するのを始めとして、日本の高山蝶及びその近縁種が多く、また大自然が残されているにもかかわらず道路が比較的整備されているので、レンタカーを使うことによって文化的な生活をしながら採集を楽しむことができる。特にB.C.南部はバンクーバーから近いし、開けており、7月上旬ならウスバキを除くパル2種は確実だし、お勧めのコースである。一度試してはいかがですか？ そしてどうしてもウスバキが採集したい人は、今度一緒にアラスカへ行きましょう。《のなか まさる 〒920 金沢市涌波町2-7-20》

SUN SUN 午後

今回はいつもと違ってちょっと報告。少しだけ興味を持っているホタルについて、少々気付いた事を書いてみました。

車のウインカーにホタルが集まるという情報をもとに、ホタル狩りに出かけたのが、今年の6月頃でした。結果はやはりものすごい効果で、ウインカーをつけたとたん、闇の中から小さな光が多数現れ、車めがけて集まってきました。田圃や草の中からはもちろんの事、かなり高い木からも舞い降りてくるため、その光景はまさに、夜空に散らばる星々が一齐に降ってきたかの様で、大変見事なものでした。ウインカーを止めると光もとたんに消え始め、また辺りは闇に包まれます。またつけると星が降り、止めると消え…といった具合で、その楽しさに取り付かれ、あちこちでウインカートラップをして楽しみました。

さて今年はどうと、またこの美しい光景を楽しみたいと6月になるのを待っていたのですが、そんな矢先N氏からゲンジを見たとき、それでは一目見たいと、今回はゲンジを求めて出かける事になりました。やはり、あちこち見て回りましたが、ゲンジは数も少なく、また光だけではヘイケとの区別がつきにくく、採ってみて始めて分かるのですから、なかなか難しいものでした。ところがその後2度程出かけてみて、飛んでいる光を見るだけで2種の区別がつくようになり、多くのヘイケの中からゲンジだけをより出して採る事ができるようになりました。そこで2種の違いについて、ここにまとめて見ました。

- 1) ゲンジはウインカーをつけなくても、道端より少し山手の方で光っている。
- 2) ゲンジはウインカーをつけても、ヘイケの様に車のすぐそばまで来ずに、遠くの方で「何事かナ…？」という感じで光っている。しかし、たまに好奇心の強いものが近くまで来るので、それを採れば良い。
- 3) さて1番のポイントであるが、ヘイケとゲンジは光り方が全く違っている。光の大きさ、明るさだけでは判別しにくい。これはヘイケのなかにも大きめのものがあるからである。最大の違いは、点滅のテンポである。ヘイケは光りっぱなしか、またはウインカーのテンポとほぼ同じ調子で光るが、ゲンジはそれよりかなりゆるやかに点滅する。ヘイケがアレグロならゲンジはモデラート位の速さだろうか。ゲンジはヘイケの様にピカピカとせわしくなく軽いイメージではなく、ピカーン、ピカーンという感じで雄々としてさすが！と思わせる光りかたである。
- 4) ゲンジは大きく活発なので、手やうちわで受けてもヘイケの様にすぐにおとなしく止まってくれず、必ず少しなりとも抵抗する。地面にたたき落しても、すぐに飛び立ってしまう。すなわちグズには採れない。

遠目にゲンジと判断したものは必ずゲンジであった事から、これらの事は間違いないと思われれます。採集したものは全部で4頭でしたが、目撃したものは10頭以上です。ゲンジがウインカーに近寄らないというのは、光るテンポが自分達と合わないからではないかと思われれますが、はっきりは分かりません。ヘイケについては、ストップランプまたは、ライトをゆっくり点滅させる実験で集まって来ない事から、やはりウインカーのテンポが合うために集まるのだと判断して良いと思います。ちなみに、ウインカーに集まるヘイケは皆オスでした。

ホタルの事など全然知らず、またゲンジを今まで一度も見つかった事なかった私にとって今回の発見は、ささやかな事ながら大変喜ばしいものでした。これを読んで少しでも興味を持たれた方、星降る光景をまだ見た事のない方、山の中でウインカーをピカピカやってみて下さいませ。残念ながら今年はまだ遅いので、来年ぜひどうぞ。ゲンジは6月一杯でいたい終わりのようですが、ヘイケは7月一杯だいじょうぶだと思います。運良く数多くいる場所に当れば、その美しさに目を見張る事でしょう。特に独身の方、彼女を誘っていかがですか？ 星降る山中でデートというのも、なかなかロマンチックだと思いますが…

会員の動き。しゃばの動き

●6月「とっくりばち」55号発行。ウスイロコノマ(金沢)、クロツヤヒゲナガコバネ(川北)、タテジマ(金沢)、ナカバヤシモモボト(金沢)等が載っている。

●「アニメ」6月号に小幡氏の「キチヨウの羽化」が載ってるよ!

《《 指田氏、幼虫採集に走る 》》

ネットの鬼こと指田氏は、成虫しか採らないと豪語していたが、ついにアサマの幼虫に手を出した。

●野中氏、中宮でキクスイカミキリを採集。ヒメシジミ捜しの結果とか。

●吉村氏、早月川で採幼したアサマの中に、何とギガンドロモドキがいた。発表は10月号の予定。

《《 医王山でスギタニルリ 》》

1982年頃、中西氏によって採集されているらしいが、詳細は不明。

●6月4日勝海氏、ヒメヒカゲを求めて兵庫は青野ヶ原へ。ピカピカをたくさん採ってきた。

●6月4日野中、松井のワンゲルコンビは、真砂より大日山へ。最近なぜかハイキング登山にかぶれている。

●6月9日井沢氏、来沢。おもしろい話をいろいろ聞いたが、お酒を飲んでいたので忘れてしまった。

●6月11日田辺氏、早朝の医王山は霧雨の中。ゼフにはまだまだ早く、やはり気の早かった竹谷氏にバツタリ出合う。

●6月11日松井氏、雨の中、大杉道より大日山へ。真砂道と同じく、一面に小さいスギが植えられていたらしい。

●6月17日松井氏、縁の下にもぐってシロアリ調査。長雨で外に出られぬ腹いせか、家の中でも虫捜し。

●6月15日勝海氏、彼女と医王山。

●6月18日竹谷氏、ゼフは未だかと医王山。乱舞の思惑もはずれ、同じ思いの田辺氏を写したに留まった。

●6月18日カミキリコンビ、長竿かついで釈迦道へ。かの競争しよう氏に乗せられ、何種ネットできるかを争った。

●6月25日嗟峨井氏、久々の医王山。夕霧峠付近でフジ狙いの松田氏と遭遇し、撮った後を採る。

●6月30日澤田氏、釈迦道のゴトウズルが気になって仕事も手に付かず、思い余って休暇をとる。おもしろいものでも入っただろうか。

●6月30日越虫19号発行。最近、富山では水棲昆虫に人気があるらしく、中でもゲンゴロウは水棲界のスターらしい。

《《 吉村氏、プツンに泣く 》》

吉村貴己氏、アキレス腱を切り今年の採集活動を棒にふった。現在、伊豆でリハビリ中だが、富久娘の飲み過ぎが原因とか。

●7月1日野中、澤田のカミキリコンビ、燈火採集を目論んで富山県は白木峰方面へ。ところが木はバツタリ伐られていて、ただ蒸し暑い風が吹いていただけでした。

●7月2日野中氏、大門山を目指す。が道路工事で進めず、ナガトロ峡で採集。アレっと思うものが採れたらしい。

7月2日吉村氏、恒例の高爪詣。トラノオが満開にもかかわらず、寒くてヒョウモンなんて何も飛んでいなかった。

7月3日松井、田中のガタガタコンピ、千木辺りでクワガタウオッチング。「こんな所にヒラタが！」と松井氏はいささか興奮。

最近、山道でこんなカンバンが目につく。いわく「緑を守る…工事」「山崩れを防止する…工事」等であるが、こんなことで風当たりが違うのだろうか。

《《 一 晩 で 全 滅 》》

松井氏が庭でふくろがけしていたキベリタテハ約40頭が、一晩で全滅した。にっくき犯人はアリだっさ。

《《 医王山でベニシタバ 》》

今のところ白山周辺でしか記録がなく、時期も1ヵ月程早い7月15日に採集された。記録者は野中 勝氏。

加賀禅定道に避難小屋ができた。四塚山から約2時間。2階建ての立派な小屋だ。ただし水はない。

例 会 の 記 録

6月2日(金)8時より実成寺にて虫供養の後、城南管工にて開催。今回はゼフシーズンにさきがけ、県産ゼフのデータリストが配布された。ところがゼフで話は盛り上がりず、最近の常となった、蘭、スライド、虫一般の3派に分かれた会合となってしまった。

参加者は、吉村、中西(2人)、松田、松井、野中、山岸、指田、澤田、近藤、細沼、田中、小幡、井村、竹谷の15人。

目 次

松井正人：オヒョウよりシータテハの幼虫を確認	1
松井正人：奥能登のウスバシロチョウ その2	2
松井正人：金沢市牧山でジャコウアゲハの発生地を発見	3
上田 昇：Self introduction	3
日野正美：Self introduction	3
野中 勝：カナディアン・ロッキー その3	4
ヒロコ：SUN SUN 午後	12
編集部：会員の動き・しゃぼの動き	13
編集部：例 会 の 記 録	14

とぶ NO.78

1989年8月4日発行

〒920-01 金沢市大場町東871-15 松井方
 百万石蝶談会
 ☎ 0762-58-2727
 振替 金沢5-562

印刷 小西紙店印刷所